魅力発信！えひめ農業

令和7年 11 月

【お知らせ】

魅力発信！えひめ農業は、県ホームページ（※1）で、県下全地区の内容について、閲覧できます。

※1　掲載場所：ホーム＞仕事・産業＞農業＞農産園芸課＞農産物の生産振興
※2　この動向は、11 月中に各普及拠点から報告のあったものをとりまとめたものです。

～愛媛県農林水産部農業振興局農産園芸課～

〒790-8570
愛媛県松山市一番町 4 丁目 4-2
（TEL）089-912-2558
（FAX）089-912-2564
http://www.pref.ehime.jp/noukei/

目次

目次 1
11 月のトピックス５選..... 3
いちご生産者と栃木の先進事例を視察 3
新規就農者の仲間づくりに向け交流会を開催 3
ユーカリ安定生産技術の実証試験及び普及指導 4
ブロッコリーのドローン防除実証において慣行散布と同程度の防除効果を確認 4
高周波音による鳥害対策実証ほ設置 5
えひめ農業 6
■東予地方局　地域農業育成室 6
水稲再生二期作の実証ほ場で収穫調査を実施 6
青年農業者を対象としたサル被害対策研修会の開催 6
大型檻によるサル捕獲演習（第２回）を実施 7
西条農業高校で GLOBALG.A.P.の更新審査に向けた GAP 学習会を開催..... 7
水路清掃によるスクミリンゴガイ対策 8
未利用資源を活用した有機肥料、普及に向け実証ほ設置 8
「東予で農業ボランティア」今治市でボランティア活動始まる 9
■東予地方局　地域農業育成室　四国中央農業指導班 9
やまのいも「やまじ丸」の団子汁で消費者に PR..... 9
大三島の女性農業者と交流する視察研修を実施 10
認定農業者が視察研修を実施 10
農業女子が中学生に農業の魅力発信 11
■東予地方局　産地戦略推進室 11
花木生産者が園地で意見交換を実施 11
■今治支局　地域農業育成室 12
新規就農者確保に向け相談会へ参加 12
農業体験ツアーで就農希望者と今治農業女子が交流 12
長期促成トマトの栽培実証ほ設置 13
■今治支局　地域農業育成室　しまなみ農業指導班 13
地域農業の多様な担い手育成活動 13
かんきつ優良園地で技術交流を図る 14
岩城実証ほ場で農業体験学習会を開催 14
■今治支局　産地戦略推進室 15
愛媛初開催のイタリアンフェスティバルにおいて、しまなみ特産加工品等を PR... 15
■中予地方局　地域農業育成室 15
いちご栽培管理に新たな育苗ポットの実証と環境データを活用 15
「中予農業応援ボランティア」を農家と企業へ推進 16
基盤整備園地での秋播き緑肥作物による草生栽培を実証 16

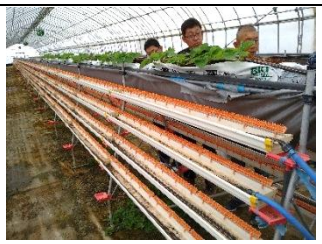
鳥獣害防止対策の資質向上を図る 17
■中予地方局　地域農業育成室　伊予農業指導班 17
青年農業者とひめカレ学生が農作業を通じて交流 17
会社員等を対象に就農相談会を開催 18
■中予地方局　地域農業育成室　久万高原農業指導班 18
食育教室で雑穀郷土料理への理解促進 18
■中予地方局　産地戦略推進室 19
「さくらひめ」需要期出荷の取組み 19
そらまめの初期生育調査を実施 19
■南予地方局　地域農業育成室 20
加工用柿の生産良好 20
■南予地方局　地域農業育成室　鬼北農業指導班 20
イチゴの花芽検鏡結果に基づく適期定植指導 20
農業研修生との意見交換を実施 21
■南予地方局　地域農業育成室　愛南農業指導班 21
農作業安全講習会を開催 21
■八幡浜支局　地域農業育成室 22
かんきつのドローンによる防除体系を検証 22
■八幡浜支局　地域農業育成室　大洲農業指導班 22
いちご難防除害虫対策として天敵実証ほを設置 22
鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施 23
■八幡浜支局　地域農業育成室　西予農業指導班 23
地元の子供たちが、大野ヶ原にんにくの植え付け作業を体験 23
グリーンフェスタ・食農教育連携会議を開催 24
■八幡浜支局　産地戦略推進室 24
青ネギの九州地方での販路開拓を支援 24
■農産園芸課　企画調整グループ 25
青年農業者の支援方策を協議する普及活動・担い手調査研究会を開催 25
■農産園芸課　高度普及推進グループ 25
データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るいちご栽培管理講習会を開催 25
第２回花き調査研究会を開催 26

11 月のトピックス５選

標　題	いちご生産者と栃木の先進事例を視察		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 11 月５日～６日	場所	栃木県真岡市、佐野市	
指導対象	いちご生産者（７人）	連携機関	JA 周桑	
普及指導内容	○栃木県は、いちごの産出額 277 億円、栽培面積 506ha（愛媛県：24 億円、36ha）を有する主産県であり、10 年以上前から、栃木県が生産者に対して環境制御技術等の先進技術の普及を進めてきた実績があることから、JA 周桑生産者の視察を支援した。 ○JA 周桑は土耕栽培の生産者が多いことから、土耕栽培における環境制御事例や設備を重点的に視察した。			
結果と今後	○生産者からは「目からうろこの情報が多かった」「環境制御技術が当たり前の技術になりつつあることに驚いた」等の声が聞かれた。 ○視察に行けなかった生産者や JA 等と情報共有を図るために、報告書を作成するほか、講習会等に併せて事例紹介を行う予定。 ○加えて、東予地域で活用可能な技術については、次年度以降実証試験を行う。			

単棟土耕ハウスを視察

30a の大型土耕ハウスを視察


育苗施設を視察

標　題	新規就農者の仲間づくりに向け交流会を開催		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月７日	場所	イオンモール今治新都市イオンホール	
指導対象	新規就農者（12 人）、就農予定者（11 人）、農業指導士（６人）	連携機関	今治市、上島町、JA（おちいまばり、今治立花）、農業共済組合	
普及指導内容	○就農形態が多様になり技術の習得や知識の不足、また、地域での仲間づくりが課題となる中、新規就農者のネットワークづくりを目的に交流会を開催した。 ○新規就農者からは意識の変化や地域内での仲間づくりの大切さ、データを活用した栽培の工夫など、就農予定者からは研修での学びや就農後の目標や夢を報告した。 ○グループワークでは、農業指導士をアドバイザーに招き、「これからの農業経営の課題と対策」をテーマに課題解決に向けて意見交換を行った。			
結果と今後	○参加した新規就農者からは「普段はなかなか関わることができない先輩農家の方々から、これまでの経験や成功事例などを具体的に聞くことができ、貴重な時間だった」との声が聴かれた。 ○今後も、同じ地域内でも交流する機会が少ない新規就農者同士での情報交換の場として、継続して開催していくこととしている。			

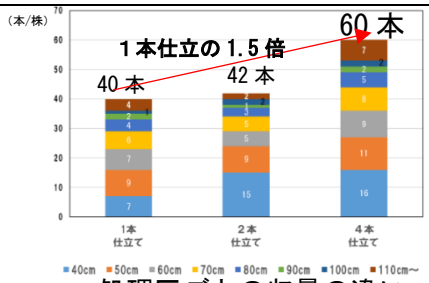
新規就農者が経営事例報告

課題解決に向け意見交換

グループワークの意見を報告

標　題	ユーカリ安定生産技術の実証試験及び普及指導		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 10 月 24 日、11 月 19 日	場所	松山市内各地	
指導対象	JA 松山市ユーカリ専門部 JA えひめ中央ユーカリ部会	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）	
普及指導内容	○当室では、ユーカリの高品質安定生産を目的に、主枝の仕立て方法の実証や、水田ほ場での「株枯れ症状」の低減対策として排水改善技術の普及推進に取り組んでいる。 ○実証試験では、現在主流の１本仕立てと新たな仕立て（２本、４本）との比較を行い、収量性が優れる仕立て方法について検証。 ○排水改善対策技術については、「株枯れ症状」が発生している生産者を対象に、「アースオーガ（穴掘り機）」によりほ場に縦穴を設置するなどの個別指導を実施。			
結果と今後	○仕立て方法の実証では、４本仕立てが１本仕立てに比べて収量が 1.5 倍多くなり有効から、技術確立を図り、作業性や収益性などについても検証する。 ○排水改善技術については、これまで管内生産者の３割に当たる 40 人が導入し、高品質安定生産を図った。 ○今後は、JA と連携して本技術を導入した生産者へのフォローアップを図り、「株枯れ症状」の発生低減に取り組んでいく。			

主枝の４本に仕立



処理区ごとの収量の違い

アースオーガによる縦穴掘り

標　題	ブロッコリーのドローン防除実証において慣行散布と同程度の防除効果を確認		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年 11 月６日、17 日、25 日	場所	愛南町上大道	
指導対象	ブロッコリー生産者（４人）	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○当班は、ブロッコリー産地の維持・拡大に向けた省力栽培体系の確立・普及を図るため、令和６年度からドローン防除実証に取り組んでいる。 ○昨年度、管内で最も作付けの多い 10 月定植で慣行の手散布と遜色ない防除効果が得られたことから、今年度はより病害虫の発生リスクが高い高温期に実証した。 ○定植（9/3）以降、継続的に病害虫の発生状況や茎葉の被害状況を調査し、計３回の防除時には、関係機関や生産部会に対し実演会を開催、情報共有を図った。			
結果と今後	○11 月下旬から収穫開始となり、収量性や花蕾品質は慣行防除と同等の状況。 ○実証農家は「花蕾の仕上がりや収量は手散布と変わりない」「繁忙期や応急的な防除が必要な時に助かる」と高評価であった。 ○今後はドローンの混用散布や施肥実証を進めるとともに、地域内の労働力確保に向けた作業支援体制を検討し、産地の維持・拡大を目指す。			

左：実演会

右：実証区の生育状況（11/6）

標　題	**高周波音による鳥害対策実証ほ設置**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年 10 月～11 月	場所	八幡浜市川上地区　ほか	
指導対象	JA にしうわ川上共選及び管内農業者	連携機関	八幡浜支局産地戦略推進室、JA にしうわ	
普及指導内容	○当室は昨年度から、高周波音による「音のバリア」を活用した新たな手法による鳥害対策を実証しており、今年度は 10 月にソニック(高周波音発生装置)7 機を設置し、管内 15 園地で調査を開始した。 ○昨年度の実証でカラスへの忌避効果が認められたことや、今年度、他の害鳥（ヒヨドリ、メジロ）の発生が少ないことから、川上共選や管内農家との申し合わせにより、越冬有袋温州と有袋媛小春のカラス対策に焦点を当てて実証している。			
結果と今後	○これまで、実証農家から「昨年までは防風ネットの上に列をなし、袋や果実に害を及ぼしていたが、今年は来なくなった」「相変わらず多いが、近くの電線までで園地には来ない」という報告を受けており、調査データからも同様の傾向が伺える。 ○越冬有袋温州の収穫時期は 12 月 25 日前後であり、この時期まで経過を観察するとともに、媛小春でも１月下旬までの調査を予定している。			

左：カラスによる被害
中：ソニック（高周波音発生装置）
右：農家との実証園地巡回

えひめ農業

標　題	水稲再生二期作の実証ほ場で収穫調査を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 12 日	場所	西条市高田	
指導対象	水稲再生二期作栽培農家（２戸）	連携機関	農研機構、JA 周桑	
普及指導内容	○水稲再生二期作の試験栽培に取り組む西条市内のほ場において、農研機構および JA 周桑と二期作目の生育、収穫調査を行い収量性や品質等を検証した。 ○同ほ場では、「にじのきらめき」が作付けされ、８月中下旬の一期作目の収穫後に施肥、たん水等の管理が行われていた。			
結果と今後	○二期作目収穫時の草姿は一期作目に比べ低くなり、成熟がばらつき完全に登熟していない小粒が多かったことから、収量は一期作目の 600kg/10a に対し二期作目は 264kg/10ａとなり、食味スコアも一期作目より低くなった。 ○再生二期作については、10 月以降の登熟期の気温に収量や品質が左右され、栽培にはほ場の取水条件等も必要となるものの、一定の収量、品質が確保できれば生産者の所得向上につながることから、引き続き関係機関と技術確立に取り組む。			

穂の先端は地上 55～75 ㎝

汎用型コンバインでの収穫

一期作目の分げつを利用

標　題	青年農業者を対象としたサル被害対策研修会の開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 21 日	場所	東予地方局西条第二庁舎、 西条市小松	
指導対象	東予ブロック青年農業者等（16 人）	連携機関	西条市、新居浜市、NPO 西条自然学校	
普及指導内容	○東予管内における青年農業者の交流を深め技術研さんを図りながら、地域リーダーとして育成することを目的に、サルの生態分析と被害防止対策をテーマとするリーダー研修会の開催を企画、支援した。 ○最初に野生鳥獣の専門家から、西条市におけるサルの分布や鳥獣害対策の基本について説明を受けた後、サル侵入防止柵を設置した会員の果樹園で現地研修を実施した。 ○会員の観光ぶどう、かんきつ園地では、上下２段の電気柵等でサルやハクビシンの侵入を防いでおり、この数年間侵入被害は無いことが報告された。			
結果と今後	○近年、会員が栽培する果樹園等でサルの被害が増加しており、生態及び対策について活発な意見交換が行われ、個人での防護対策や地域での捕獲対策の必要性等を知ることができた。 ○今後も青年農業者の組織活動等を通じ、会員が抱える経営課題の解決等を支援する。			

サルの生態についての講演

現地視察の様子

電気柵の設置状況

標　題	大型檻によるサル捕獲演習（第２回）を実施		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 28 日	場所	西条市吉岡地区	
指導対象	市、JA 鳥獣被害対策担当者、えひめ地域鳥獣管理専門員等（16 人）	連携機関	西条市、新居浜市、JA（えひめ未来、周桑）、NPO 法人 西条自然学校	
普及指導内容	○市、JA の鳥獣害担当者及びえひめ地域鳥獣管理専門員の資質向上を目的として、サルを捕獲する大型檻を設置する演習を行った。 ○当日は、第１回の演習における現地調査や群れの行動調査等から選定した檻の設置場所において、檻の組立方法等を説明した後、集落住民と共に檻を組み立て、今後の餌付けや捕獲の進め方等を検討した。			
結果と今後	○参加者は、実際に大型檻を組み立てることにより檻の構造を知るとともに、効率的な捕獲檻組立の手法等を習得することができた。 ○今後の演習では先進地の事例を調査するとともに、監視カメラの映像の共有や現場での検証等を通して、効果的なサルの餌付けや捕獲方法を検討する。			

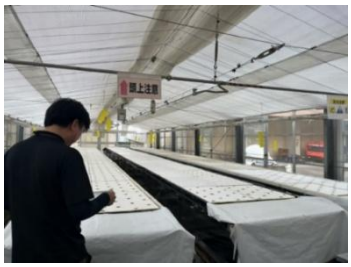
檻の組立方法を説明

檻の組立作業

今後の餌付けの進め方を説明

標　題	西条農業高校で GLOBALG.A.P.の更新審査に向けた GAP 学習会を開催		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 19 日	場所	県立西条農業高校	
指導対象	県立西条農業高校２年生（９人）	連携機関	－	
普及指導内容	○サラダ菜で GLOBALG.A.P.の更新審査を受ける生徒を対象に、審査に向けた事前学習として、GAP の知識習得や理解促進を目的とした GAP 学習会を開催した。 ○同校は、令和５年３月に軟弱野菜（サラダ菜等）で認証を取得しており、本年度については、８月に認証更新に向けた内部審査を実施している。 ○学習会では、GAP の種類や概要、取り組むことによる効果等を説明し、実践としてほ場や周辺の環境から考えられるリスクの書き出しを行った。			
結果と今後	○高校生は、農業実習で行っている活動が GAP の実践につながっていることを理解し、GAP の取組みに対する意欲を高めた。 ○今後は 12 月上旬に行われる GLOBALG.A.P.の更新審査に向けて、内部審査での指摘箇所の改善確認を行い、円滑な認証更新を支援していく。			

GAP の概要を説明


サラダ菜を栽培するハウス

高校での GAP の実践例

標　題	水路清掃によるスクミリンゴガイ対策		機関名	東予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 16 日	場所	新居浜市垣生公民館	
指導対象	新居浜市垣生地区水稲栽培者（18 人）	連携機関	JA えひめ未来新居浜経済センター	
普及指導内容	○新居浜市垣生地区において、近年被害拡大が見られるスクミリンゴガイの防除を目的とした水路清掃を、地区住民等と実施した。 ○清掃作業には、JA えひめ未来の岡部組合長をはじめとする関係者が参加し、当室からは、冬季に水路を通水せず乾燥させることや、土及び泥あげによりスクミリンゴガイの隠れ場所を無くす作業の手順等を説明した。			
結果と今後	○防除作業を通して、水量が多く流れがある水路ではスクミリンゴガイは少ないものの、下流部で水量がある水路等では生息数が増加していること等が確認できた。 ○今後、越冬したスクミリンゴガイの状況を確認するとともに、春の水路清掃作業前に重点対策箇所を決定し防除を徹底することとしており、JA 広報誌にも越冬個体の防除対策や春の清掃作業の方法等を掲載する予定。			

スクミリンゴガイ防除の説明

水路の清掃

スクミリンゴガイが生息する泥

標　題	未利用資源を活用した有機肥料、普及に向け実証ほ設置		機関名	東予地方局農業振興課
年月日	令和７年 11 月 13、14、18 日	場所	西条市神戸地区、禎瑞地区、久枝地区	
指導対象	実証ほ設置協力農家（４戸）	連携機関	JA えひめ未来、JA 周桑	
普及指導内容	○当課では、国際情勢の影響を受けやすく、地力低下の要因にもなる化学肥料に依存した農業からの脱却を図るため、令和６年度から、局予算事業により、東予地域の未利用資源である「鶏ふん」「食品残さ」「下水汚泥」を原料とした有機肥料の開発を進めているところ。 ○今年度は、６年度に試作した有機肥料の肥効を確認するため、さといも及び水稲で実証を行ったほか、この度、裸麦及びたまねぎの実証ほ（各２ほ場）を設置した。 ○なお、実証ほでは、元肥には試作有機肥料、追肥には化成肥料を使用する施肥体系を基本としている。			
結果と今後	○たまねぎにおける有機肥料の散布は、化成肥料と比較して量は５倍となり、機械（ライムソワー）による散布時間は 2.1 倍程度であった。 ○たまねぎ、裸麦においては、生育状況、土壌 EC 等の調査により、地温の低い時期の肥効を確認し、追肥のタイミングや量を検討する。 ○これらの生育状況、収量・品質等については、年明け開催予定の有機肥料利用促進協議会及び有機肥料普及推進シンポジウムにおいて報告する。			

試作した有機肥料（ペレット）

試作有機肥料散布の様子（たまねぎほ場）

発芽した裸麦（有機肥料区）

標　題	「東予で農業ボランティア」今治市でボランティア活動始まる		機関名	東予地方局農業振興課
年月日	令和７年 11 月 19、21、30 日	場所	JA おちいまばり菊間支所、亀岡支所 イオンモール今治新都市	
指導対象	農業者（78 人）、一般消費者（200 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○東予地区では、令和６年度から農業労働力確保及び農業の魅力発信のため、局予算を利用し「デイワーク」アプリと地域ポイントを活用した有償ボランティアの仕組みを構築しているところ。 ○昨年度の西条市に加え、今年度は今治市へも活動を拡大しており、かんきつ栽培が盛んな菊間地区で農家への周知・説明を行った。 ○また、ボランティア登録者獲得のため、JA の農業まつりで一般消費者への PR 活動を行うとともに、新聞記事等でイベントの広報を行った。			
結果と今後	○菊間地区で農家４人がデイワーク登録を行い、うち２人が伊予柑等の収穫作業のボランティア募集を始めている。 ○（株）ファーム咲創の協力により、気軽に参加できるボランティア体験会を企画し、12 月６日のさといも収穫イベントで活動を広く周知することとしている。			

左：かんきつ農家へ説明

右：体験会の案内チラシ

標　題	やまのいも「やまじ丸」の団子汁で消費者に PR		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 11 月 15 日～16 日	場所	三島体育館前広場	
指導対象	四国中央やまじ丸生産振興協議会	連携機関	JA うま	
普及指導内容	○同市の特産品であるやまのいも「やまじ丸」の認知度向上を図るため、みそ汁風味の団子汁を市産業祭来場客（２日間で計 400 人）に振舞い、PR 活動を実施した。 ○また、家庭での消費拡大に繋げようと「やまじ丸」を使った料理のレシピ集の配布も併せて行った。			
結果と今後	○団子汁の試食は大盛況で、試食者からは「とてもおいしかった」「やまのいもはどこで買えるのか」等の感想や質問が多数あり、興味や関心を示していた。 ○「やまじ丸」の認知度はまだまだ低いため、今後も、市内学校給食での利用定着や松山市の宿泊施設等での利用を推進するなど、PR 活動を積極的に展開する予定。			

左：団子汁を試食する来場客

右：職員が手際よく調理

【やまじ丸】
四国中央市で生産された県育成品種「やまじ王」を JA うまが商標登録。「愛」あるブランド産品の認定を受けている。

標　題	**大三島の女性農業者と交流する視察研修を実施**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 11 月 20 日	場所	今治市大三島	
指導対象	さくらひめ四国中央会員（３人）	連携 機関	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	
普及指導 内容	○農業女子として必要な知識・技術を身につけ資質向上を図るため、当室が指導しながら、大三島の農業女子と交流し、農業経営等を学ぶ視察研修を実施した。 ○当日は、四国中央でも問題となっている鳥獣害の対策技術に加え、島しょ部のさくらひめメンバーとの意見交換や観光農園の取組事例調査を行い、農業経営への精力的な取組姿勢等を学んだ。			
結果と今後	○当会員は、担当者等からの説明を動画で記録するなど、今回学んだことを各自の経営に活かそうとする意欲的な姿勢がうかがえた。 ○今後、12 月に定例会を開催し、今回参加できなかった会員にこの研修で学んだことを共有する。			

鳥獣害対策方法等を研修

意見交換会

観光農園の事例調査

標　題	**認定農業者が視察研修を実施**		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 11 月 26 日	場所	松山市馬木町、下伊台町	
指導対象	四国中央地域認定農業者等連絡協議会川之江・新宮支部会員（９人）	連携 機関	四国中央市	
普及指導 内容	○同協議会は、会員が普段抱えている課題等を効果的に解決するため、視察研修を実施し、トラクタ等の農業機械の開発動向や甘平の裂果対策技術を学んだ。 ○株式会社 ISEKI　M&D では、トラクタの構造や耐久性試験等の開発状況を確認し、果樹研究センターでは、裂果軽減につながる点滴かん水、摘果技術等について研究員から指導を受けた。			
結果と今後	○会員は、農業機械の安全性、耐久性や日常点検等に関する質問を行い、農作業事故防止や整備方法等の知識の向上を図ることができた。 ○また、甘平の裂果軽減には土壌水分の変動を少なくするかん水管理が重要であること、摘果による着果量の調整が裂果・収量に影響することを理解した。 ○この他、紅プリンセス栽培ほ場において、樹形や着果状況等を確認し、今後の栽培管理方法等の注意点等を習得することができた。			

左：農業機械について研修

右：果樹研でほ場研修

標　題	農業女子が中学生に農業の魅力発信		機関名	東予地方局地域農業育成室 四国中央農業指導班
年月日	令和７年 11 月 10 日	場所	四国中央市立川之江北中学校	
指導対象	さくらひめ四国中央会（５人）	連携機関	四国中央市農業振興課	
普及指導内容	○職業選択について考え始める中学２年生（111 人）が農業への関心を高め就農意識の醸成につなげることを目的に、農業女子が企画した「食と農業」をテーマにした２回目の出前授業を支援した。 ○１回目の授業で、は種・定植したねぎの生育状況を確認、評価し、「出荷しても良いで賞」の受賞者を決定するなど、中学生にねぎ栽培のアドバイスをした。 ○当班が四国中央市の農業の歴史や特徴を説明した後、Ｕターンで農業を始めた会員２名が自身の農業経営や農業の魅力について熱く語った。 ○会員が朝収穫したねぎと、スーパーで販売されている刻みねぎを生徒 10 人が食べ比べ、新鮮なねぎほど香りが強いことを体感した。			
結果と今後	○出前授業後のアンケートでは「よかった」88%、農業のイメージが「変わった」86%という回答を得、農業を身近に感じてもらうきっかけとなった。 ○また、15 人が「将来農業をしてみたい」と回答し、「社長になる」「達成感を感じたい」など、農業を職業として考える働きかけができ、農業の魅力発信につながった。 ○今後、農業女子と中学校の意向を確認し、次年度の実施方法等を検討する予定。			

自身の経営を語る農業女子

ねぎの食べ比べ

中学生が栽培した「ねぎ」

標　題	花木生産者が園地で意見交換を実施		機関名	東予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 11 月 26 日	場所	西条市内各地	
指導対象	東予花木生産者ネットワーク会員（６人）	連携機関	－	
普及指導内容	○東予花木生産者ネットワークの活動として、当室が指導しながら、西条市内で花木を専業で栽培するメンバーの園地にて互評会を開催した。 ○ユーカリ、ティナスのほ場で樹姿を観察し、せん定の方法や出荷時期、防除について意見交換を行った。			
結果と今後	○骨格枝の整枝のポイントや防除のタイミングについて、活発な意見交換が行われた。 ○参加者からは、品目特性に応じた管理方法の違いや、花木を専業で営む上での経営方法について新たな気づきが得られたとの声が聞かれた。 ○次回は別のメンバーの園地にて互評会を実施し、今後も会員の技術向上を支援する。			

意見交換

せん定の方法を共有

東予花木生産者ネットワーク
　東予管内の意欲的な生産者が集まり、会員相互の技術向上を通じて、儲かる花木栽培の実現と花木産地の発展を目指すネットワーク

標　題	新規就農者確保に向け相談会へ参加		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 23 日	場所	東京ビックサイト	
指導対象	就農相談者（７人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○新規就農者の確保に向けた新たな取組みとして、東京都で開催された「新・農業人フェア」へ参加し、当室が作成したパンフレットを配布した。 ○このパンフレットには、就農相談から就農に至るまでの支援体制、研修制度、活用できる補助事業を始め、今治地域で活躍する新規就農者等の情報を掲載した。			
結果と今後	○当日の相談者は４件７人で、「かんきつ栽培がやりたい」「将来農業をやりたいので、支援制度などの情報が欲しい」等の意見が聞かれた。 ○当室では、今後も関係機関と連携し、作成したパンフレットを活用して、就農相談会や移住フェアに参加する等、新規就農者の確保に努めていく。			

左：作成した就農啓発パンフレット

右：相談者へ研修制度を説明

標　題	農業体験ツアーで就農希望者と今治農業女子が交流		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 29 日～30 日	場所	今治市玉川町、上浦町	
指導対象	愛媛県で就農を希望する女性（３人）	連携機関	JA おちいまばり、農政課農地・担い手対策室	
普及指導内容	○愛媛県で就農を希望する県外在住女性を対象とした農業体験ツアーが今治地域他で開催され、就農に向けた情報提供・意見交換や農作業体験が実施された。 ○農作業体験では、農業女子から指導を受けながら、さといもとみかんの収穫作業を体験した。 ○当室からは、研修制度や就農時に活用できる補助事業、就農に係る支援体制等の説明や情報提供を行った。			
結果と今後	○参加者からは、作業体験では「大型機械を使い効率よくさといもが収穫できることを体験できてよかった」、意見交換では「実際に経営を行う女性農業者の話が聞け、就農後のイメージができた」等の声が聞かれた。 ○当室では、農業女子の活動を支援するとともに、新規就農者の確保に向けた取組みを実施していく。			

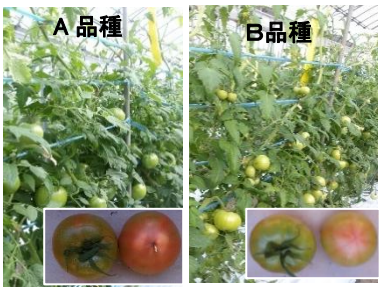
大型機械でのさといもの収穫を体験

みかんの収穫を体験

ツアー参加者と記念撮影

標　題	**長期促成トマトの栽培実証ほ設置**		機関名	今治支局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月７日、21 日	場所	今治市朝倉下	
指導対象	JA おちいまばりトマト部会（７人）	連携機関	JA おちいまばり、農産園芸課	
普及指導内容	○当部会は、長期促成トマト（定植９月、収穫 11～６月）において、市場ニーズに対応した多収品種導入に向けて、２品種を比較するとともに黄化葉巻病の被害軽減を図るため、天敵と防虫ネットを組み合わせた実証ほを設置した。 ○当室は、定期的に各品種の生育と黄化葉巻病の発生状況やタバコカスミカメ(天敵)の定着状況を確認している。			
結果と今後	○収穫は、両品種とも 11 月第５半旬に始まり、Ａ品種はＢ品種に比べて草勢が強く果実は大きいが格外品が多く、Ｂ品種は小玉中心であるが、果形が良い傾向が見られた。 ○黄化葉巻病の発生は見られていないものの、タバコカスミカメの数が少なく、コナジラミ類が見られるため薬剤散布の指導を行う。			

タバコカスミカメ（成虫）



品種別の生育状況

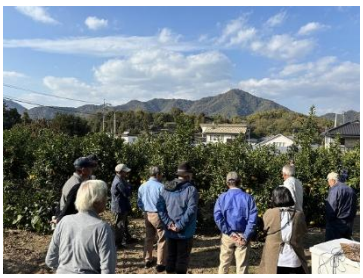
草丈、着果数等を調査

標　題	**地域農業の多様な担い手育成活動**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年 11 月８日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在所	
指導対象	上島町かんきつ栽培基礎講座受講生（事前募集）（５人）	連携機関	上島町、JA おちいまばり	
普及指導内容	○農業技術を習得したい、又は農業に興味のある上島町在住者を対象に、かんきつ栽培の知識や栽培技術について基礎講座を８月から４回開催した。			
結果と今後	○６月に広報かみじま、上島町公共メールを活用して受講生を募集した結果、異業種退職就農者２人、新規就農者１人、就農を考えているＵターン、Ｉターン移住者２人、合計５人の申し込みがあった。 ○講座は、８月から 11 月まで月１回開催し、かんきつ栽培の技術体系の座学とかんきつ園地での実地指導を行った（出席率 100%）。 ○今後も、新規就農者の定着や就農のきっかけ作りを支援するため、岩城駐在実証ほを技術指導や営農相談の地域拠点として活用し就農支援活動を行う。			

左：座学による栽培知識や技術の指導

右：実証ほでの実技指導

標　題	**かんきつ優良園地で技術交流を図る**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年 11 月 21 日	場所	上島町岩城地区かんきつ園地	
指導対象	岩城果樹研究会員（15 人）	連携機関	JA おちいまばり	
普及指導内容	○岩城地区内において、主要中晩かん類の優良園地を巡回視察し、技術や経営の情報交換を行った。 ○県育成品種を中心に、技術課題や生育評価を行い、栽培技術の確立を図った。			
結果と今後	○紅まどんな、紅プリンセス、せとかの４園地を巡回して、生育評価や園主を交えて栽培技術等の意見交換を行った。 ○優良園地の状況を見聞きすることで、品質向上及び経営改善意識の高揚が図られた。			



紅プリンセス園地での様子

標　題	**岩城実証ほ場で農業体験学習会を開催**		機関名	今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班
年月日	令和７年 11 月 21 日	場所	しまなみ農業指導班岩城駐在	
指導対象	弓削小学校３年生（12 人）	連携機関	－	
普及指導内容	○弓削小学校３年生とその保護者が、島特産のかんきつに関する学習の一環として、早生温州みかんの収穫作業を体験した。 ○当班から、かんきつ栽培について説明し、収穫作業の手順を示した後、児童が保護者と一緒に早生温州を収穫した。			
結果と今後	○児童たちは楽しみながら熱心に作業に取り組み､時間内に収穫を終えることができた。 ○試食も好評で「上島町のいろんな種類のみかんをもっと食べたい」と、地元農産物への意識を高めることができた。 ○保護者から「上島町で多くのかんきつが栽培されていることを初めて知ることができた」「子供達に、このような体験をもっとさせたい」など好意的な意見が多く聞かれ、農業体験学習の意義を再確認するよい機会となった。			

実証ほでの収穫体験の様子

標　題	愛媛初開催のイタリアンフェスティバルにおいて、しまなみ特産加工品等を PR		機関名	今治支局産地戦略推進室
年月日	令和７年 11 月 30 日	場所	今治市みなと交流センター（はーばりー）	
指導対象	しまなみみんなのディッシュ会員（１人）	連携機関	―	
普及指導内容	○しまなみみんなのディッシュ（以下「ディッシュ」）活動の更なる活性化には、商品の認知度向上が重要であり、当室では様々な取組みを企画している。 ○今回、愛媛初開催となる「アミタリア愛媛」への出店を支援した。 ○当日はイタリア野菜やオリーブなど、会の趣旨に沿った商品販売と PR 支援に加え、当室が 12 月１日から約１か月間実施するイタリア野菜飲食店イベントの周知を行った。			
結果と今後	○好天と陽気に誘われ、多くの来場者がイタリアの「食」と「文化」を楽しみ、ディッシュの売り上げが今年のイベント出店で最高額となるなど、盛況のうちに終了した。 ○会員は、売上が伸びた理由を「『イタリアの食文化に触れる』という目的を持った来場者が多いのでは」と分析し、時宜を得たイベント出店の重要性を改めて認識したことから、今後も上記の飲食店イベントをはじめ、タイムリーな支援策を展開していく。			

【アミタリア愛媛】
イタリアの食・文化・モノに関心を寄せる飲食店や物販業者等が集うフェスティバル。
過去２回は東京で開催されており、３回目は初の地方開催として、愛媛からイタリアンカルチャーの情報発信を行うもの。
（県内外から 28 団体が出店）

好天で盛況なイベント

標　題	いちご栽培管理に新たな育苗ポットの実証と環境データを活用		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 10 日	場所	東温市内各地	
指導対象	いちご生産者（５人）	連携機関	JA えひめ中央、みのる産業（株）	
普及指導内容	○いちご若手生産者グループ（だんだんの会）の技術力向上を図るため、環境データ活用に関する第２回勉強会を生産者ほ場で実施。 ○勉強会では、育苗ポットの違いによる花芽分化の影響を目的とした「エクセルキューブ」と「アイポット（慣行）」の比較試験の結果について報告するとともに、低コスト環境モニタリング機器（２台）を活用したハウス内の適切な温度について指導した。			
結果と今後	○気化熱効果のある「エクセルキューブ」は、「アイポット」に比べて、培地内最高温度の平均（7/15～8/13）が約３℃低く、花芽分化が５日程度早まることを確認した。 ○また、生産者も温度管理に注意を払うなか、11 月上旬のハウス内温度が 10℃を下回る日が観測された結果を受けて、改めて気象データの重要性と速やかな温度管理の必要性について共有した。 ○今後も引き続き環境データの収集・分析を行い、いちごの安定生産を支援していく。			

【エクセルキューブ】
特殊なポリエステル繊維で培地を固めたいちご専用育苗培土

左：エクセルキューブ

右：生産者のほ場を巡回

標　題	「中予農業応援ボランティア」を農家と企業へ推進		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 12 日～13 日、21 日、25 日	場所	松山市内各地	
指導対象	かんきつ生産者（４人）	連携機関	JA えひめ中央	
普及指導内容	○中予管内農業者の労働力確保を目的に、12 月から始動する「中予農業応援ボランティア」の推進として農家説明会と企業訪問を実施した。 ○同ボランティアへの関心がある生産者（JA えひめ中央組合員）や企業２社（スバル中四国（株）、四国電力（株））に対して、事業の仕組みとマッチング・ポイント獲得アプリの使用方法について説明し、取組みへの理解を促すとともに参加を働きかけた。			
結果と今後	○生産者からは、「収穫期は作業が続くので、毎日でもボランティア募集したい」といった期待する意見が多くあった。 ○一方でアプリ操作に苦手意識がある生産者もおり、JA と連携してきめ細かい対応を行い、多くの利用につなげる。 ○企業からは、社内でボランティアへの機運がより高まればと考えており、今回の取組みを是非とも社員に周知したい旨の声をいただいた。 ○引き続き、ボランティアに関心のある企業への推進を図るとともに、今後は、大学等への働きかけを行い、若い世代のボランティア参加も進めていく。			

【中予農業応援ボランティア】
中予地方局・JA えひめ中央・（株）まちペイが連携し、新しく構築した有償ボランティアの取組み。
マッチングやボランティアへのポイント付与にスマートフォンアプリを全面的に活用した効率的な仕組みとしている。

農家説明会

企業訪問による取組推進

標　題	基盤整備園地での秋播き緑肥作物による草生栽培を実証		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 21 日	場所	松山市下難波地区ほか	
指導対象	松山市、砥部町実証農家（13 戸）	連携機関	JA えひめ中央 中予地方局農村整備第一・二課	
普及指導内容	○当室では、かんきつ基盤整備園地５地区（下難波、由良、砥部地区等）の 13 園地において、早期成園化と土壌流亡防止を目的に、秋播き緑肥作物による草生栽培を実証。 ○草種は、ヘアリーベッチ（マメ科）、テフグラス（イネ科）ほか計５種類で、生育状況や被覆状況について調査。			
結果と今後	○ヘアリーベッチ及びテフグラスは、順調に生育して地表面を８割程度覆っており、土壌流亡防止効果が期待できる。 ○ドローン播種したヘアリーベッチは、均等に生育・被覆していることを確認した。 ○実証農家からは、「テフグラスは土壌流亡の防止だけではなく、雑草の抑制効果もある」と高評価であった。 ○引き続き、各草種の生育状況などを調査し、最適な播種時期と草種の組合せを検討して、それぞれの園地条件に応じた草生栽培体系の確立を図る。			

左：ヘアリーベッチ実証ほ
右：テフグラスの草高調査

標　題	**鳥獣害防止対策の資質向上を図る**		機関名	中予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 26 日	場所	砥部町文化会館、砥部町岩谷口	
指導対象	松山市・東温市・JA えひめ中央・JA 松山市の鳥獣害対策関係者	連携機関	松山地区農業改良普及事業推進協議会 （株）野生鳥獣対策連携センター 砥部町	
普及指導内容	○市や JA 等が参画する松山地区農業改良普及事業推進協議会が主催となり、鳥獣被害防止対策につなげるため、(株) 野生鳥獣対策連携センターから講師を招き研修を行った。 ○管内で被害が多いイノシシと、被害が拡大しているサルを中心に、野生獣の行動に基づく対策の基本や効果的なわなの設置方法等を学ぶとともに、サル用囲いわなについて砥部町の取組状況について現地研修を行った。			
結果と今後	○今回、現地研修した同型の囲いわなの新規導入を予定している自治体もあり、管理方法等について熱心に質疑が行われた。 ○今後も同推進協議会を通じた研修活動の実施により、関係者の鳥獣害対策の資質向上に努める。			

左：室内研修で対策の基本を学ぶ

右：サル用囲いわなの現地研修

標　題	**青年農業者とひめカレ学生が農作業を通じて交流**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年 11 月５日	場所	砥部町中央公民館、砥部町内各地	
指導対象	砥部町青年農業者協議会(10 人) えひめ農業未来カレッジ学生(13 人)	連携機関	えひめ農業未来カレッジ	
普及指導内容	○青年農業者協議会活動の魅力発信と就農希望者の掘り起こしを目的に、同組織がひめカレ学生を招き、今年度で３回目となる農作業体験を通じた交流会を開催。 ○参加した学生は４か所のほ場に分かれ、「温州みかん」の収穫や「せとか」の袋掛け等の作業を行った後、将来の夢などについて語り合った。			
結果と今後	○学生からは「将来の就農に向けたイメージができた」、会員からは「学生に教えることで自分自身も勉強になる」等のコメントがあり、有意義な交流となった。 ○今後も就農候補者の確保育成に向け、青年農業者組織活動を通じた取組みを支援する。			

農作業体験の様子

活発な意見交換の様子

標　題	**会社員等を対象に就農相談会を開催**		機関名	中予地方局地域農業育成室 伊予農業指導班
年月日	令和７年 11 月 30 日	場所	伊予市農業振興センター	
指導対象	就農に興味のある相談者（６人）	連携機関	伊予市、伊予市農業委員会、JA えひめ中央	
普及指導内容	○就農希望者の掘起こしを目的に、平日の参加が困難な会社員等を対象とした休日の個別就農相談会を開催。 ○当日は申込みのあった６人（４組）が参加し、就農に対する意向を聞き取った後、各種支援内容等について情報提供し、就農意欲を醸成。			
結果と今後	○本格的な専業就農を考えている相談者には、利用可能な支援制度や研修先等を説明し、定年退職後に少しずつ始めたい相談者には、農地の探し方や技術習得に向けた講座等を紹介し、それぞれの疑問を解消する場となった。 ○今回の相談者のスムーズな就農に向け支援していくとともに、今後も新規就農者の確保に向けて市町、JA 等と連携した就農啓発活動を継続していく。			

標　題	**食育教室で雑穀郷土料理への理解促進**		機関名	中予地方局地域農業育成室 久万高原農業指導班
年月日	令和７年 11 月６日	場所	久万高原町久万	
指導対象	町内幼稚園児、保護者及び幼稚園教諭（17 人）	連携機関	久万高原町生活研究協議会、久万保健センター、久万町内幼稚園	
普及指導内容	○久万高原町生活研究協議会は、久万保健センターが主催する町内の幼稚園児及び保護者等を対象とした食育教室で、たかきびやこきびを使用した雑穀ごはんの試食提供とたかきびの団子汁の調理実習を指導し、雑穀の食文化の継承と普及を図った。 ○当班からは、雑穀の栽培や活用について紹介した。			
結果と今後	○雑穀ごはんの試食は参加者から好評であった。 ○また、参加した園児は保護者や教諭と一緒にたかきびの団子汁の調理と試食を行い、雑穀を使った郷土料理への理解を深めた。 ○今後、久万高原町生活研究協議会は町内の小学校を対象とした食育教室も開催予定であり、当班は関係機関・団体と連携のうえ支援を行っていく。			

左：食育教室での調理実習

右：たかきびの団子汁

標　題	「さくらひめ」需要期出荷の取組み		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 11 月５日～25 日	場所	松山市、東温市、伊予市、松前町各地	
指導対象	さくらひめ生産者（13 人）	連携機関	JA（松山市、えひめ中央）、県農林水産研究所	
普及指導内容	○地方局予算「さくらひめ産地強化事業」において、需要期出荷を目的とした夏季自家育苗技術の確立と収益向上に取り組んでいる。 ○切り花の出荷時期を迎えた山間部をはじめ、各生産者のほ場を巡回し、生育状況に応じた栽培管理を指導するとともに、年内の出荷見込み等を確認した。			
結果と今後	○山間部の切り花では、冷蔵施設を使った自家育苗と標高の高さを活かし８月下旬に定植を行った結果、10 月末からの出荷が実現し、ブライダル需要期に間に合ったことから草丈は 60 ㎝程度と短めであったが高単価での取引きとなった。 ○平野部の切り花では、夏季自家育苗と購入苗を組み合わせて９月～11 月まで定植を分散して継続的な出荷を目指しており、計画通り 12 月以降の出荷が見込まれるほか、鉢物の年内出荷の作型では 11 月上旬から順次出荷を開始している。 ○引き続き、関係機関と連携した栽培指導や安定出荷に向けた技術確立に取り組む。			

冷蔵施設での自家育苗

山間地のさくらひめ（10 月末から出荷）

標　題	そらまめの初期生育調査を実施		機関名	中予地方局産地戦略推進室
年月日	令和７年 11 月 21 日、27 日	場所	伊予市及び松前町内各地	
指導対象	そらまめ生産者（10 戸）	連携機関	JA（えひめ中央、松山市）	
普及指導内容	○地方局予算「そらまめ産地強化事業」により、近年問題となっているそらまめの黄化症発生や収量低下の原因究明と単収の向上に向けた取組みを実施している。 ○今年度、着莢期以降の地温上昇や大雨への対策技術等を検討するために設置している実証ほを含む 10 戸の生産者のほ場を巡回指導し、初期生育の調査を実施した。			
結果と今後	○実証ほでは、３種類のマルチを使用し地温の違いや草勢への影響等を調査した。 ○11 月中のマルチ色ごとの地温は、黒マルチは銀マルチや白黒マルチに比べ、最高・最低ともに約 0.6℃高く推移した一方で、各マルチのそらまめの初期生育には大きな差はみられず、順調な生育が確認された。 ○引き続き、関係機関と連携した巡回指導や栽培実証等により、収量の回復や黄化症対策技術の検討を進める。			

実証ほ（黒マルチ）の様子

標　題	**加工用柿の生産良好**		機関名	南予地方局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 25 日	場所	宇和島市三間町ほか	
指導対象	―	連携機関	JA えひめ南	
普及指導内容	○加工用柿「伊達柿」の生産向上に向け、せん定・摘果講習会の開催や個別巡回による防除指導等を継続的に行い、10 月６日から出荷が開始。 ○今年度は、低樹高化や簡易防除機など、省力化に向けた作業体系の実証にも取り組んできた。			
結果と今後	○カメムシや鳥被害も少なく、期間中の出荷量は 10.7ｔ（前年比 250%）と裏年傾向であった前年から大幅な増となった。 ○生産性向上と省力化を目指し、次年度も栽培指導と実証調査を継続して行う。			

左：簡易防除機の実証

右：出荷された伊達柿

標　題	**イチゴの花芽検鏡結果に基づく適期定植指導**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年９月 16 日～ 令和７年 11 月７日、21 日	場所	鬼北町近永	
指導対象	イチゴ生産者（２人）	連携機関	宇和島地区いちご研究連絡協議会	
普及指導内容	○「夏秋期の異常高温により年内にイチゴが採れない」という生産者の声を受け、品種やポット・育苗方法ごとに頂果房（１番果房）・第一次腋果房（２番果房）の花芽分化ステージを把握（花芽検鏡）し、生産者へ定植適期及び追肥時期等を指導した。			
結果と今後	○「紅い雫」「かおり野」は、頂果房（１番果房）の花芽分化は９月第４半旬と「紅ほっぺ」「レッドパール」よりも早く、11 月下旬から収穫開始となるとともに、第一次腋果房（２番果房）が 10 月末に花芽分化を迎え、１月中の収穫開始と中休みが短くなることが見込まれた。 ○一方、「紅い雫」「レッドパール」は、頂果房の出蕾に不揃いが見られ、定植苗の苗質揃い向上や定植適期の判断基準見直し等が必要と考えられた。 ○生産者からは、「来年は収穫開始の早い品種の作付けを増やし、遅い品種は数日に１度日光に当てる方式の株冷処理により収穫開始を早めたい」との意見が聞かれた。 ○当班では、年内収量、３月末収量を確認の上、異常高温下でも安定生産可能な品種選定や育苗方法（花芽分化促進処理）を、生産者と一緒に検討していく。			

〈紅い雫〉	未出蕾	出蕾	開花	果実	(%)
10月21日	58	32	10		
11月7日	55	2	7	36	
11月21日	44	8	2	46	

〈かおり野〉	未出蕾	出蕾	開花	果実	(%)
10月21日	44	39	17		
11月7日	39	7	6	48	
11月21日	27	12	5	56	

〈紅ほっぺ〉	未出蕾	出蕾	開花	果実	(%)
10月21日					
11月7日	20	64	13	3	
11月21日	11	1	10	78	

〈レッドパール〉	未出蕾	出蕾	開花	果実	(%)
10月21日					
11月7日	95	5	0	0	
11月21日	81	12	6	1	

左：定植後のイチゴの様子

（かおり野）

右：開花調査結果

（11/21 時点）

標　題	**農業研修生との意見交換を実施**		機関名	南予地方局地域農業育成室 鬼北農業指導班
年月日	令和７年 11 月 12 日	場所	鬼北農業指導班	
指導対象	農業研修生等（４人）	連携機関	松野町、松野町農林公社、鬼北町、鬼北町農業公社、JA えひめ南	
普及指導内容	○就農研修生や就農間もない新規就農者を対象に実施中の「KIHOKU あぐり講座」の一環として、研修生と講座を支える就農研修検討会メンバーとの意見交換会を、農業簿記講座に引き続いて開催した。 ○研修生から各自の就農研修状況の報告や本講座に対しての要望等が出された。			
結果と今後	○参加者からは、「不要になった中古農業機械等の情報を知りたい」「農業に関する各種相談ができる方が地域内にいることが分かり有意義であった」などの意見が聞かれた。 ○今後も就農研修生の意見を取り入れながら、スムーズに就農・定着できるよう支援を継続していく。			

意見交換会直前の農業簿記研修

標　題	**農作業安全講習会を開催**		機関名	南予地方局地域農業育成室 愛南農業指導班
年月日	令和７年 11 月 25 日	場所	JA えひめ南　南宇和営農センター	
指導対象	青年農業者、認定農業者等（18 人）	連携機関	JA えひめ南、コベルコ教習所	
普及指導内容	○地域の農作業事故ゼロに向けた取組みとして、刈払機（草刈機）の取扱者講習会を開催した。 ○講習会では、メーカーが刈払機の操作、整備方法等を説明し、実機を用いた刈刃の交換練習を行った。 ○加えて、当班から農作業事故の実態把握に向けたアンケート調査を実施した。			
結果と今後	○参加者からは作業内容に応じた刈刃の選び方、傾斜地における刈払機の使用方法について質問があり、効率的かつ安全な作業方法に対する関心の高さが伺えた。 ○アンケートの結果から、事故経験者は０人、キックバックや作業中の転落など危険を感じた経験のある人は４人であった。 ○これらの結果を踏まえ、次年度も農作業事故ゼロを目指した講習会を開催する。			

左：刈払機の構造について説明

右：実機を用いた講習

標　題	かんきつのドローンによる防除体系を検証		機関名	八幡浜支局地域農業育成室
年月日	令和７年 11 月 10 日	場所	八幡浜市五反田	
指導対象	―	連携機関	八幡浜支局産地戦略推進室、果樹研究センター	
普及指導内容	○当室が参画する西宇和スマート農業推進協議会では、農業用ドローンの普及に向け、かんきつのドローン防除体系を確立することとし、本年４月に、年間を通じてドローンのみで防除を行う実証ほを設置し、これまでに９回の防除を実施したところ。 ○当日は、収穫直前の果実の病害虫発生状況を調査して防除効果を確認した。			
結果と今後	○調査の結果、カイガラムシ類やハナアザミウマの発生及び被害がわずかに見られたほか、樹冠内部で黒点病の被害が見られた。 ○一方、省力化の面では、当実証ほにおける防除作業時間について、手散布では約３時間かかるところを、ドローン散布では約 30 分に短縮できるとともに、急傾斜での重労働から解放されるなど、大きなメリットを確認している。 ○今後、実証協力農家に、前年産や他園地との防除効果の比較について聞き取りを行い、今回の現地調査と合わせて効果を評価し、省力化のメリットや補助的な手散布の必要性等を盛り込んで、ドローン防除普及に向けた指導資料とする予定。			

左：ドローンによる農薬散布
中：被害状況を調査
右：ハナアザミウマによる被害果実

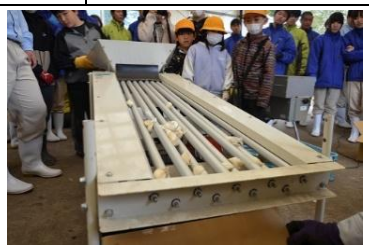
標　題	いちご難防除害虫対策として天敵実証ほを設置		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年 11 月５日～	場所	大洲市東大洲、若宮	
指導対象	実証農家（１人）	連携機関	JA 愛媛たいき、アリスタライフサイエンス（株）	
普及指導内容	○近年、高温等の影響によりハダニ類及びアザミウマ類の発生が増加し、化学農薬のみでは防除が困難となっており、当班では令和５年から天敵導入を推進している。 ○今年は、天敵の効果的な導入方法を明らかにするため、関係機関、資材メーカー等と検討し、天敵（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ、ククメリスカブリダニ）の放飼時期や害虫発生時に使用する農薬等を検証する実証ほ（4a）を設置した。 ○実証協力農家に対し、予め効果的な使用方法について理解を深めてもらうため、天敵の生態や放飼方法、影響が小さい農薬の選定等を指導した。			
結果と今後	○害虫密度がゼロに近い状態で天敵を放飼しており、今後２週間に１回、天敵及び害虫の発生状況を調査するとともに、費用対効果を検証する。 ○また、使用農薬や防除回数などを明確化し、農薬散布等の省力化および高品質生産に向けた産地への技術導入を目指す。			

左：天敵放飼
右：放飼した天敵
（ミヤコカブリダニ、チリカブリダニ）

標　題	**鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班
年月日	令和７年 11 月 12 日	場所	大洲市柳沢本郷	
指導対象	本郷地区農家（５人）	連携機関	大洲市、JA 愛媛たいき	
普及指導内容	○鳥獣害防止対策をより効率的に推進し、農家等の生産意欲の向上に資することを目的とし、鳥獣害防止対策集落見回り活動を実施した。 ○鳥獣管理専門員から大洲市の被害状況、獣種ごとの被害、防護柵設置、その他ポイントについて説明の後、農家と共に設置の実演を行った。 ○また、当班より高周波音を利用した鳥獣被害軽減対策の実証結果の報告を行った。 ○令和５年度に設置した防護柵の状況を見回り、破損等の状況確認等を行った。			
結果と今後	○当地区での防護柵の設置面積は少なく、農家からの質問も活発で、今回の活動研修を熱心に受講した。 ○地際からの侵入や柵の老朽化対応にも懸念の声が上がっていた。 ○今後も引き続き、山際の未整備地区を中心に事業導入等を行い、集落ぐるみでの防護柵の設置と維持管理を図る。			

左：防護柵設置ポイントの解説
中：農家と共同での設置作業
右：既存設置柵の点検

標　題	**地元の子供たちが、大野ヶ原にんにくの植え付け作業を体験**		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年 11 月５日	場所	西予市野村町大野ヶ原	
指導対象	西予市立大野ヶ原小学校児童（５人） 県立野村高校生徒(23 人) 大野ヶ原にんにく組合（３人）	連携機関	西予市立大野ヶ原小学校、 県立野村高校、西予市、(株)祐	
普及指導内容	○大野ヶ原で生産する寒地系にんにく（品種：福地ホワイト六片）の理解促進と PR を図るため、地元の小学生・高校生を対象に、植え付け体験交流会を開催した。 ○当班は、種子にんにくの選別作業方法や植え付け作業の注意点について説明した。 ○また、高校生から、昨年度開発したにんにく加工品（バーベキューソース）を使用したレシピ集について説明があった。			
結果と今後	○今回の参加で、初めて植え付け作業を経験した高校生からは「種子にんにくはとても固く、それをひとつひとつ取り分けて植えるのは大変だった」「来年収穫するのが楽しみ」といった感想が聞かれた。 ○来年６月には、同ほ場にて収穫体験交流会を予定しており、当班は引き続き大野ヶ原にんにくの安定生産と知名度向上に取り組む。			



左：機械による種子選別の見学
右：高校生・小学生の植え付け作業の様子

標　題	グリーンフェスタ・食農教育連携会議を開催		機関名	八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班
年月日	令和７年 11 月６日	場所	西予市教育保健センター	
指導対象	西予生活研究協議会員、学校給食関係者、直売所関係者等(45 人)	連携機関	西予市	
普及指導内容	○当班は、地域の郷土料理の伝承と地産地消の推進を目的に、生活研究協議会が主催する「グリーンフェスタ 2025」及び食農教育連携会議の開催を支援した。 ○食生活改善推進協議会と西予市健康づくり推進課からの事例発表と、同協議会員が手作りした地域の食材を使った弁当を試食しながら「西予市で取り組む地産地消・食農教育」をテーマとしたグループワークを行った。			
結果と今後	○グループワークを通じて、会員からは「小中学校等での食文化普及講座の継続が大切」「地域の食生活改善推進協議会と連携して食農教育を進めたい」、学校給食関係者からは「学校給食のメニューとして活用するため、もっと郷土料理を教わりたい」といった前向きな意見が出された。 ○当班は、今回集まった意見を、今後の組織活動支援に反映する。			

左：グループワークの様子
右：地域の食材を使った手作り弁当

標　題	青ネギの九州地方での販路開拓を支援		機関名	八幡浜支局産地戦略推進室
年月日	令和７年 11 月 18 日～20 日	場所	福岡県福岡市（マリンメッセ福岡）	
指導対象	（株）ノムランド	連携機関	県営業本部 西予市	
普及指導内容	○当室で産地化を支援している青ねぎは、全国的に生産量が増え、産地間の競争が激化しており、新たな販路の開拓が課題となっているため、九州地域で最大規模の食品産業の展示会である「FOOD STYLE Kyushu」への参加を支援した。 ○青ねぎの PR パンフレットの配布や試食を行いながら、西予市産の青ねぎの特徴等を説明し、できるだけ多くのバイヤーをブースに引き込み、商談が円滑に進むよう支援した。			
結果と今後	○試食した多くのバイヤーから「苦みが少なく食感が良い」と好評で、同社は前向きな商談が多数できたことから、販路拡大への自信を深めることができた。 ○今後、同社は来春に首都圏で開催される大規模展示会にも参加し、さらなる販路拡大を進める予定。			

展示ブース

生産者とバイヤーの商談

青ねぎを出汁に入れて試食

標　題	**青年農業者の支援方策を協議する普及活動・担い手調査研究会を開催**		機関名	農産園芸課 企画調整グループ
年月日	令和７年 11 月 17 日	場所	いよてつ会館	
対　象	農産園芸課、担い手担当普及指導員など（28 人）	連携機関	農地・担い手対策室 (公財)えひめ農林漁業振興機構	
内　容	○青年農業者をはじめ、担い手の育成・支援を担当する普及指導員等の普及方法・担い手調査研究会員が参加し、調査研究会を開催。 ○県下各地の青年農業者の育成・確保に関する課題や対応について共有するとともに、共通の課題について協議。 ○さらに、国の研修に参加した普及職員からの報告、(公財)えひめ農林漁業振興機構から県青年農業者連絡協議会の活動状況の説明、農地・担い手対策室から事業等の情報提供があった。			
結果と今後	○農業者の連絡方法も SNS が増え、組織活動の魅力を伝えるのが難しい時代。 ○組織活動のあり方など、今後の担い手育成について引き続き検討していくことを申し合わせた。			

協議の様子

標　題	**データ駆動型施設野菜栽培実証事業に係るいちご栽培管理講習会を開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年 11 月 18 日	場所	東温市内各地、花き研究指導室	
指導対象	モデル農家、JA 営農指導員、普及職員等（50 人）	連携機関	株式会社誠和。　、JA、普及拠点等	
普及指導内容	○低コスト環境計測機器で収集したデータを環境制御に活用した管理を行っていくため、いちご栽培管理講習会を開催。 ○株式会社誠和。から講師を招き、モデル農家２名のほ場で現在の生育や管理の状況を踏まえた指導を行った。 ○また、午後からは「定植後のいちご管理～ちょっと振り返ってみよう～」と題し、定植前の管理や冬の環境制御について講演を行った。			
結果と今後	○参加者からは「ほ場を見ながら指導を受けられるため分かりやすい」「１日の温度管理のイメージができた」との声が聞かれ、環境制御への機運を高めることができた。 ○今後は、環境計測機器のデータや生育調査の結果に基づき、栽培指導を行う。 ○また、１月には、きゅうり及びトマトで現地講習会の開催を計画しており、データ活用による生産性の向上を目指す。			

左　現地講習会の様子

右　室内講習

標　題	**第２回花き調査研究会を開催**		機関名	農産園芸課 高度普及推進グループ
年月日	令和７年 11 月 20 日	場所	花き研究指導室、東温市下林	
指導対象	花き調査研会員（19 人）	連携 機関	花き研究指導室、中予地方局	
普及指導 内容	○近年、温暖化の影響により、花きの生産現場では花木類の生育不良が生じていることから、各普及拠点より生産状況について報告を受け、課題を整理した。 ○現地ほ場では、1.8ha で枝物類を栽培している生産者から栽培概要の説明を受けた。			
結果と今後	○花木類については夏季に葉焼けや枝枯れ症状の発生が問題となっており、高品質で安定的に出荷するために、適期かん水の重要性について再認識した。 ○ほ場見学では、軽量で収穫時期を分散させやすい花木生産の魅力を学び、参加者からは施肥方法や出荷調整方法についての質問が寄せられた。 ○今後も関係機関と連携しながら、花きの高品質安定生産に取り組む。			

左：研修会の様子
右：現地ほ場見学

■■■ 情報の問合せ先一覧表 ■■■

機関名	所在地および連絡先
東予地方局農林水産振興部 農業振興課	西条市丹原町池田 1611 TEL:0898－68－7322 FAX:0898－68－3056
東予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 四国中央農業指導班	四国中央市中之庄町 1684-4 TEL:0896－23－2394 FAX:0896－24－3697
東予地方局農林水産振興部 今治支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	今治市旭町 1-4-9 TEL:0898－23－2570 FAX:0898－22－9724
東予地方局農林水産振興部 今治支局地域農業育成室 しまなみ農業指導班	今治市伯方町木浦甲 4637-3 TEL:0897－72－2325 FAX:0897－72－1912
中予地方局農林水産振興部 農業振興課	松山市北持田町 132 TEL:089－909－8762 FAX:089－909－8395
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 久万高原農業指導班	上浮穴郡久万高原町入野 263 TEL:0892－21－0314 FAX:0892－21－2592
中予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 伊予農業指導班	伊予市市場 127-1 TEL:089－982－0477 FAX:089－983－2313
南予地方局農林水産振興部 農業振興課	宇和島市天神町 7-1 TEL:0895－22－5211 FAX:0895－22－1881
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 鬼北農業指導班	北宇和郡鬼北町興野々1880 TEL:0895－45－0037 FAX:0895－45－3152
南予地方局農林水産振興部 農業振興課地域農業育成室 愛南農業指導班	南宇和郡愛南町城辺甲 2420 TEL:0895－72－0149 FAX:0895－73－0319
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局 地域農業育成室・産地戦略推進室	八幡浜市北浜 1-3-37 TEL:0894－23－0163 FAX:0894－23－1853
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 大洲農業指導班	大洲市田口甲 425-1 TEL:0893－24－4125 FAX:0893－24－5284
南予地方局農林水産振興部 八幡浜支局地域農業育成室 西予農業指導班	西予市宇和町卯之町 3-434 TEL:0894－62－0407 FAX:0894－62－5543